

# 筑紫中央高等学校

(普通教室棟／特別教室・管理棟／メディア棟／体育館棟)



(北側鳥瞰パース)

## ■事業概要

筑紫中央高校は、平成29年度に創立100周年を迎えた伝統校であり、本事業では、昭和40～50年代に建設された校舎等を老朽化に伴い建替更新を行いました。

新校舎をグラウンド側にまとめて建設することで、授業への影響が少なく、最小限の工期での施工が可能となりました。

また、西鉄連続立体交差事業との連携を図り、正門位置を西鉄高架に面した東側とし、地域活動ともつながりのある学校を建設しました。

## ■工事概要

所在地：大野城市中央2丁目

構造階数：鉄筋コンクリート造

(一部鉄骨造)

地上3階建て

延床面積：普通教室棟 4,756.73㎡

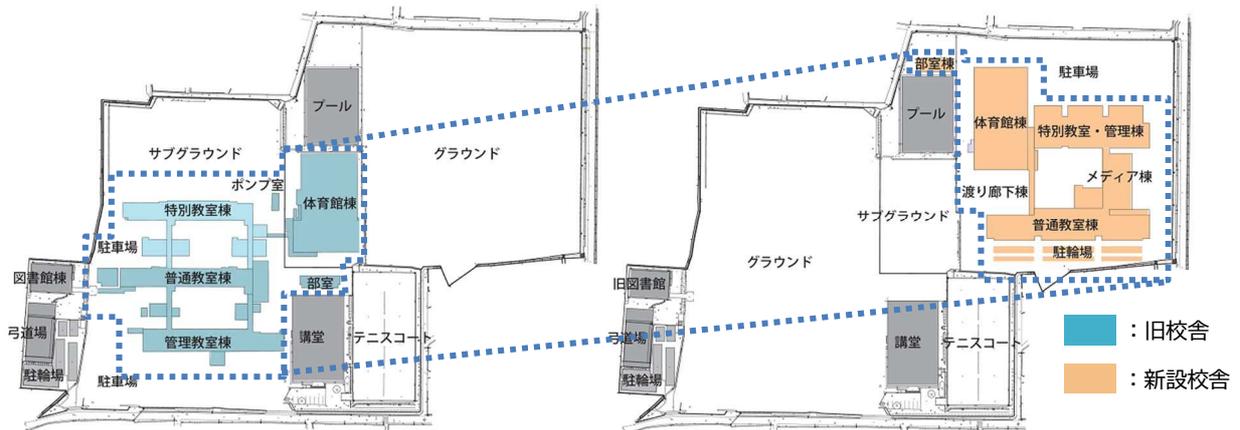
特別教室・管理棟 5,026.63㎡

メディア棟 1,266.72㎡

体育館棟 2,482.70㎡

竣工年月：令和5年2月

事業原課：教育庁施設課



(前後図)

## ■設計コンセプト

生徒たちの自由で多様な学習を促すため「学びの場」「出会いの場」「集いの場」からなる「3つの場」を「幸都のみち」でつなぐ「筑紫ひろば」により、生徒同士の交流を誘発し、教師との気軽なコミュニケーションを生み出し、さらに、高架を活かした街づくり、地域活動とも連携する次代の学校を計画しました。

### ・主体的な活動をつなぐ「学びの場」

生徒全員の拠り所となる中庭を囲むように校舎を配置し、校舎をつなぐ回遊動線に沿ったマルチスペースやラーニングセンター（図書室、PC教室）、多目的な講義室等が中庭側に顔を出します。

### ・地域と学校をつなぐ「出会いの場」

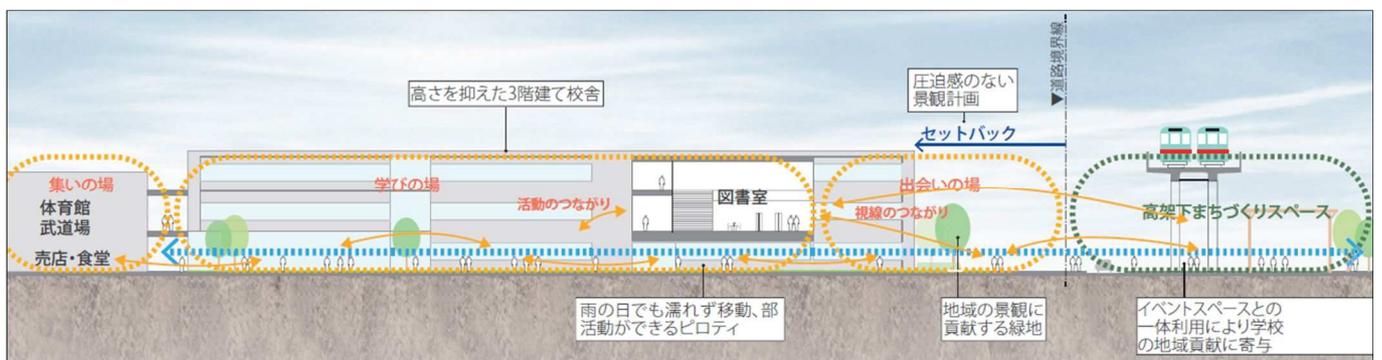
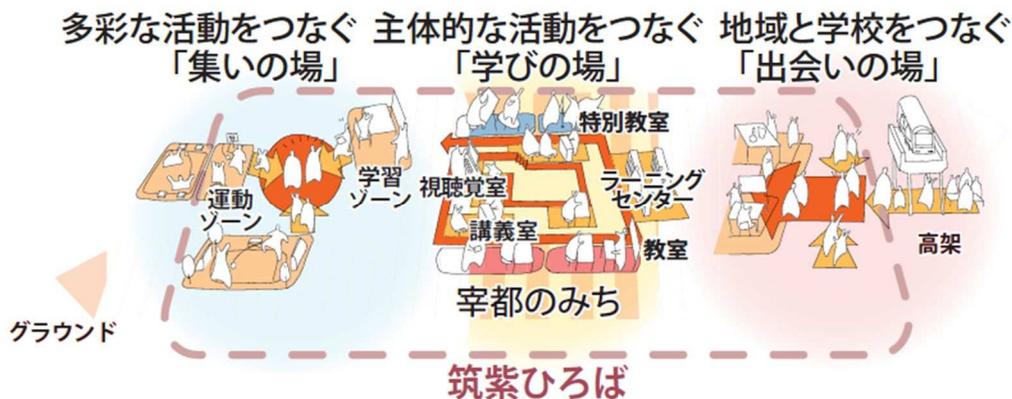
高架下から生徒たちの日常活動が感じられ、イベント時には一体利用も可能な場を提供するとともに、周辺の住宅地と調和し、地域に開かれた学校としました。

### ・多彩な活動をつなぐ「集いの場」

既存施設を含めた学校そのものを一つの「まち」として捉え、授業にとどまらず様々な活動ができ、さらにその活動をつなぐ「場」をつくりました。

### ・生徒たちの活動が地域の風景となる「幸都のみち」

高架下広場から続く「幸都のみち」に多様な活動のシーンを重ねることで生徒の活動が地域の風景となるよう計画しました。





(北側外観)

■配置計画

- ・校舎は道路から引きを取り、まちに開いたオープンスペースを確保し、まちとつながるとともに、周辺への圧迫感を低減しました。
- ・まちに対しての顔となる東面の中央に大きなカーテンウォールを設け、生徒の活動が見える形でファサードを彩りました。



(北東側外観)

■立面計画

- ・低層の住宅地が密集する周辺環境に配慮し、高さを抑えた3階建ての計画とし、まちなみに配慮した学校としました。

■色彩計画

- ・学校全体の色調として、地域に明るい雰囲気を与えるように白系を基調とした外観を形成しました。



(南側外観：メディア棟)

■メディア棟

- ・中庭にある大階段は広い階段幅とすることで、本を読みおしゃべりができる空間となるよう計画しました。
- ・自習や、生徒が教師へ質問しやすいよう職員室前に自習スペースを配置しました。



(東側外観：特別教室・管理棟／渡り廊下)

■特別教室・管理棟

- ・エレベーターを設置するとともに、2・3階に特別教室を設けることで、渡り廊下を介して普通教室へ接続できる計画としました。



(普通教室：普通教室棟)

■普通教室棟

- ・普通教室は南側採光を受ける配置としました。
- ・普通教室棟の各階にはマルチスペースを設け、グループ学習や教室外での授業への対応を可能としました。



(アリーナ内観：体育館棟)

■体育館棟

- ・1階に体育館・食堂、2階に武道場を設けました。
- ・災害時の避難所に指定されており、外壁には電源カーが接続可能な発電機接続盤を設置しました。



(マルチスペース：普通教室棟)



(図書室：メディア棟)

- ・生徒が活動する動線を中心に、内部に階段のある2層吹抜けの図書室を整備しました。
- ・メディア棟のピロティや普通教室、廊下、体育館など、生徒・来校者が利用する空間を中心に木材(県産材)を積極的に採用し、温もりのある空間を計画しました。



(ピロティ：メディア棟)

## 築上西高等学校 特別教室棟／管理教室棟



(北側外観)

### ■工事概要

所在地：築上郡築上町椎田

#### 【特別教室棟】

構造階数：鉄筋コンクリート造  
地上2階、地下1階建て

延床面積：2,037.51㎡

竣工年月：令和2年9月

#### 【管理教室棟】

構造階数：鉄筋コンクリート造  
地上3階建て

延床面積：1,950.92㎡

竣工年月：令和4年3月

事業原課：教育庁施設課

### ■事業概要

築上西高校は、平成25年度に創立100周年を迎えた伝統校であり、本事業は、昭和30年代に建設した校舎等を老朽化に伴い改築するものです。一部の既存校舎の改造を伴う大規模改築事業であることから、継続利用する建築物を有効活用できる配置計画とし、かつ、学校を運営しながら事業を実施するための安全かつ実現性のあるローリング計画をすることが重要です。また、住宅地内にある学校で、周辺道路も狭く、敷地内に高低差もあるため、周辺環境に配慮した施設整備が求められました。



## 福岡高等学校 講堂棟



(南側外観)



(本館側からの外観)

### ■事業概要

福岡高等学校は平成29年度に100周年を迎えた伝統校であり、その100周年記念として、福高研修学園及び弓道場の跡地に新たな講堂を計画しました。

歴史ある既存建物の縦を強調したデザインを現代的に踏襲し、流れるような曲面の外壁ラインが特徴的な建物です。

講堂と体育館の両機能を備えつつ、学生食堂も併設することで利用頻度の高い施設計画となっています。

講堂と食堂でトイレやホールを共有し空間を有効利用するとともに、渡り廊下により、天候に左右されない生徒動線を確保しています。

### 講堂

- ・座席数1349席（固定：420席、ロールバック：429席、スタッキング：500席）

### 食堂

- ・食堂席数：206席、厨房：96㎡

### ■工事概要

所在地：福岡市博多区堅粕1丁目

構造階数：鉄筋コンクリート造

(一部鉄骨造)

地上2階建て

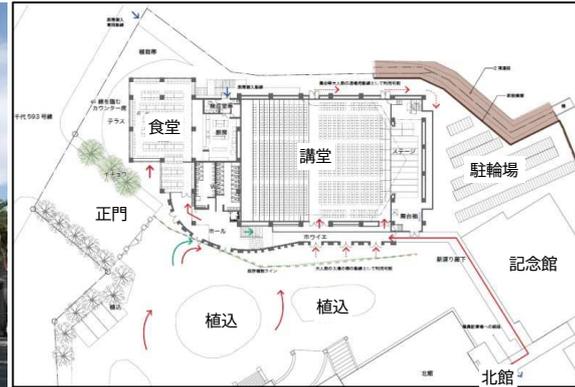
延床面積：1,933.12㎡

竣工年月：令和元年9月

事業原課：教育庁施設課



(正門側からの外観)



(配置計画)

### ■ 既存校舎との調和

- ・ 正門からの校舎の見え方に配慮し、講堂が校舎の外観を妨げない配置とし、既存校舎を引き立たせ視線を引き込む曲面を用いて、これからの福岡高校を期待させるデザインとしています。
- ・ 既存校舎のタテを意識したファサードをデザイン要素として取り入れるなど、伝統と未来の融合を図っています。

### ■ 配置計画

- ・ 既存のイチョウ並木を残すように配慮しました。
- ・ ロータリー側の出入口は屋外経由の生徒と保護者用、渡り廊下側の出入口は内部経由の生徒用とすることで、スムーズな動線を可能としています。
- ・ 厨房サービス動線は正門手前で確保し、敷地内での生徒動線との交錯を避けました。



(講堂)



(食堂)

### ■ 講堂

- ・ ステージには、使い勝手にあわせた舞台機構設備、博多織の緞帳を備え、客席側を通らずに、舞台袖に直接出入りできる搬入口を計画しています。
- ・ 体育館機能も担うため、スタッキングチェア、ロールバックチェアを収納した状態でバドミントンコートが3面確保できる広さと天井高を確保しています。

### ■ 食堂

- ・ 外部にテラスを設け既存植栽を活かした前庭を設けることで、食堂からの景観がより豊かになるよう工夫しています。

## 筑紫丘高等学校 本館棟



(北側外観)

### ■工事概要

所在地：福岡市南区野間2丁目  
構造階数：鉄筋コンクリート造  
地上4階、地下1階建て  
延床面積：4,624.97㎡  
竣工年月：令和4年2月  
事業原課：教育庁施設課

### ■事業概要

筑紫丘高等学校は、令和9年度に創立100周年を迎える伝統校です。本事業は昭和40年代に建設された既存の校舎等の建替え計画に当たり、本館棟の改築工事を行ったものです。

本事業は、全施設の改築ではなく、事業後も一部の既存校舎を継続利用することから、残存する校舎を含めた施設全体が有機的に連携するよう計画する必要があります。また、狭小で高低差のある敷地形状や周辺に近接する住宅地等に配慮が求められる計画となっています。



(南東側外観)



(アクティブラーニングコーナー)

### ■ 立面計画

- ・屋根は陸屋根の中央にシンボリックな鉄骨造の切妻屋根を配置し、遠景を意識した外観としています。また、東面の外壁は全面タイル仕上げとし、既存講堂の意匠性を考慮した立面計画を行っています。
- ・南側は日射を遮るために大きめの庇を設けて日影をつくり、水平ラインが強調された立体的な立面としています。

### ■ 内装木質化

- ・校長室や会議室に加え、講義室やアクティブラーニングコーナーなどの生徒が長時間滞在する空間の内装には、できるだけ県産の木材を使用することで、温かみのある雰囲気をつくり出しています。



(本館北側階段広場のイメージ)



(ギャラリー)

### ■ 敷地の高低差

- ・敷地が狭小で高低差があるため、棟によって最下階のレベルが異なる計画となります。
- ・そのため、階によって階高を変更したり、各棟をつなぐ回廊やスロープを設置したりすることで、レベル差を効果的に解消する計画としています。

### ■ ギャラリー

- ・最上階に設置した開放的なオープンスペース（ギャラリー）は、理系の特別教室に面しており、下階の芸術系特別教室と合わせて、生徒の作品や自由研究発表・標本を展示できるスペースとして活用します。
- ・切妻屋根に沿った船底天井とハイサイドライトにより、開放的で明るい空間となっています。

## 田川高等学校 管理教室棟



(南側外観)

### ■工事概要

所在地：田川郡香春町大字中津原

構造階数：鉄筋コンクリート造

地上4階建て

延床面積：4,226.87㎡

竣工年月：令和元年12月

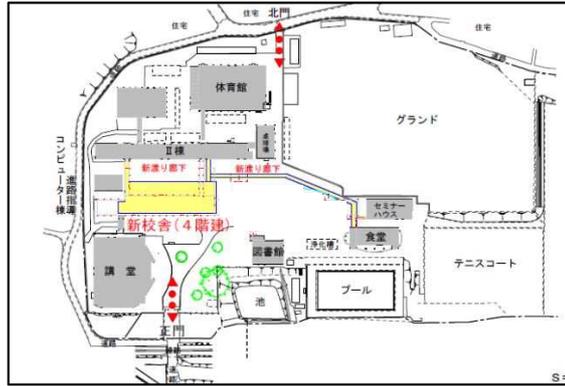
事業原課：教育庁施設課

### ■事業概要

県立田川高等学校は平成29年度に創立100周年を迎えた伝統校です。本事業は、昭和40年代初期に建設された学校の顔といえる「管理特別教室棟」を、老朽化に伴い改築したものです。



(南側外観)



(配置計画)

### ■ 正面デザイン

- ・学校のシンボルとして、正面玄関上の屋上パラペット部に突き出すように校章を配置しています。
- ・玄関前には、香春岳一ノ岳、二ノ岳、三ノ岳をモチーフに伝統ある既存正門のデザイン取り入れた6本の柱を計画しました。
- ・夏場の日差しと雨を遮る横の庇と西日を制御し風を取り込む縦の庇を配しています。

### ■ 配置計画

- ・仮設校舎を用いない建替え計画とするため、既存の管理特別教室棟のEXP. jより西側を解体したエリアに新校舎を計画しました。
- ・食堂・多目的ホール棟への動線を確保するために渡り廊下を設置しました。



(廊下)



(1階 多目的トイレ)

### ■ 木質化

- ・管理諸室、図書室、普通教室、廊下の床にはフローリングを採用しています。
- ・県産木材の利用促進のため、普通教室および廊下の腰壁には杉板を使用しました。さらに、玄関ホールの天井や腰壁にも木材を使用しています。

### ■ バリアフリー

- ・車椅子利用者が使用できる駐車場を整備し、玄関にはスロープと自動扉を設置しています。(南側外観参照)
- ・階段やスロープには手摺を設け各階にエレベータを設置することで車椅子利用者等に対応した仕様としました。
- ・各階に多目的トイレを設置し、1階の多目的トイレはオストメイト対応としました。

## 久留米高等学校 管理教室棟



(北東側外観)



(西側外観)



(航空写真 (南側))

### ■工事概要

所在地：久留米市西町

構造階数：鉄筋コンクリート造  
地上3階建て

延床面積：3,627.08㎡

竣工年月：令和4年3月

事業原課：教育庁施設課

### ■事業概要

久留米高等学校は、平成30年に創立110周年を迎えた伝統校です。既存の校舎は昭和33年に建設され、その後増改築を繰り返し、現在に至ります。

本事業は、これらの施設の建替え等の計画に当たり、管理教室棟の改築を行うものです。また、学校運営を行いながら、既存校舎と極めて近接した位置に新校舎を建設する計画であったことから、施工中の安全対策や騒音・振動への配慮が特に求められる工事となりました。



(セサミプラザ)



(セサミプラザ上部のハイサイドライト)

### ■ 立面計画

- ・セサミプラザは、フレキシブルな学習の場（アクティブラーニングスペース）と図書館を一体化したものとしました。
- ・中庭に続く3層吹抜けの空間であるため、ここで展開される活動はあらゆる場所から見ることができ、生徒、教師、職員、同窓会などすべての人のコミュニケーションの空間となります。

### ■ ハイサイドライト

- ・奥行きが深いセサミプラザには、屋根から明かりがとれるようにハイサイドライトを設けています。また、暖かい空気が上昇する特性を利用し、夏季には窓を開放して天井内にこもった空気を自然排出する熱抜きにも利用します。



(視聴覚室)



(中庭)

### ■ 視聴覚室

- ・1階西側には大講義室としても使える視聴覚室を設けており、同窓会などの集まり等への活用が出来るようにしています。
- ・多くの方や生徒が入り出る出入口前には、上部から光の入るホワイエを設けています。

### ■ 中庭

- ・中庭は文字通り建物中央に位置し、昇降口の正面で校舎全部の光庭として機能しています。
- ・建具を全面開放することでセサミプラザと一体的に利用が可能となります。

## 築城特別支援学校 教室棟



(南側外観)

### ■工事概要

所在地：築上郡築上町大字築城

構造階数：鉄筋コンクリート造

地上4階建て

延床面積：2,399.63㎡

竣工年月：令和2年11月

事業原課：教育庁施設課

### ■事業概要

築城特別支援学校は、(旧)福岡県立築城養護学校(知的障害対象/小学部・中学部)における教育を礎とし高等部教育への二ズの高まりや肢体不自由教育の場の整備等、本県特別支援教育における喫緊の課題に対応するため、京築全域の知的障害教育及び肢体不自由教育の中心的役割を担い、小学部から高等部段階まで一貫した教育を行う新たな特別支援学校として、平成22年4月に開校しました。

本事業は、その後の児童生徒の増加に伴う恒常的な教室不足を解消するため教室棟の増築を行ったものです。



(普通教室)



(多目的トイレ)

■ 普通教室

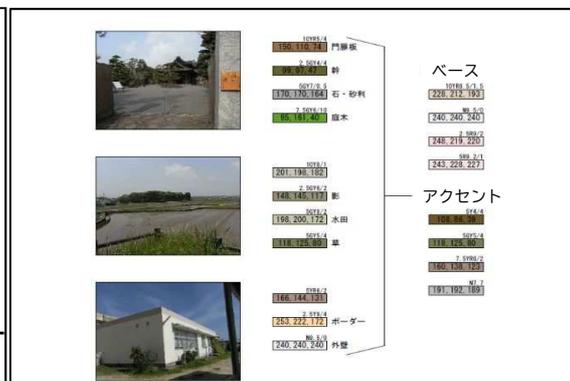
- ・将来的に生徒数の変動が予測されることから、普通教室間の界壁にはできるだけRC壁を設けず、さらに、可動間仕切等を活用して、クラス数に応じて間取りの変更を可能にする工夫を施しています。

■ 行為空間

- ・所要の動作をしやすいように、十分な空間を確保しています。
- ・家具や衛生器具等の配置構成や寸法・形状等は、多様な施設利用者を考慮し、利用しやすいものとなるよう設定しています。
- ・スイッチ等は操作しやすい位置・大きさ・形状とし、操作方法のわかりやすい安全なものとしています。



(西立面図)



(外壁色彩計画)

■ 将来の増床計画

- ・中廊下型の採光不足を補うために光庭を計画しました。この光庭は、将来増床が必要になった場合の余剰スペースとして、増築可能な計画としています。

■ 色彩計画

- ・周辺環境と調和した色彩計画とするため、農地や緑地等の周辺の自然環境との調和と既存校舎との適合性を考慮した外壁色の選定を行いました。

## 若松高等学校 特別教室棟



(西側外観)

### ■ 工事概要

所在地：  
北九州市若松区上原町  
構造階数：  
鉄筋コンクリート造  
地上3階建て  
延床面積：  
1,198.35㎡  
竣工年月：  
令和3年3月  
事業原課：  
教育庁施設課

### ■ 事業概要

若松高等学校は、明治45年開校の若松高等女学校を前身とし、令和4年度に創立100周年を迎えた伝統校です。本事業は、昭和36～39年にかけて建設された既存施設の建替え計画に当たり、その第1期として特別教室棟の改築工事を行ったものです。



(コモンホール (3階))



(調理教室)

### ■ コモンホール

- ・ 学年集会など学年単位での活動ができるコモンホールを各階に計画しました。床をフローリングとし、天井の一部を木調ルーバーにするなど、温かみのある空間としています。

### ■ 色彩計画 (内部)

- ・ 壁や天井には淡色系（白に近いアイボリーなど）を基調色とし、明るく清潔感のある屋内空間としています。
- ・ ポイント的に床や家具などの一部に柔らかな色調のアースカラーを組み合わせ、統一感を持たせています。

## 山門高等学校 特別教室棟



(西側外観)

### ■ 工事概要

所在地：

みやま市瀬高町上庄

構造階数：

鉄筋コンクリート造

地上3階建て

延床面積：

2,340.89㎡

竣工年月：

令和4年2月

事業原課：

教育庁施設課

### ■ 事業概要

山門高等学校は、大正2年開校の瀬高技芸女学校を前身とし、平成25年度に創立100周年を迎えた伝統校です。本事業は、昭和38～52年にかけて建設された校舎や体育館等の既存施設の建替え計画に当たり、管理教室棟の改築工事を行ったものです。



(玄関ホール)



(普通教室)

### ■ 色彩計画

- ・ 伝統の継承と地域のシンボル性を考慮し、学校のイメージカラーである緑色を正面外壁のアクセントカラーとして用いるとともに、玄関前の柱と内部の壁面には山門高校正門の格式あるイメージを踏襲したレンガタイルを施しています。

### ■ 木質化

- ・ 普通教室をはじめ、生徒や職員、外来者の利用頻度が高い諸室や廊下等の床・腰壁を木質化し、福岡県産木材を積極的に利用しています。

## 三池高等学校 体育館



(南西側外観)

### ■ 工事概要

所在地：  
大牟田市大字草木  
構造階数：  
鉄筋コンクリート造  
(一部鉄骨造)  
地上2階建て  
延床面積：  
1,948.32㎡  
竣工年月：  
令和3年2月  
事業原課：  
教育庁施設課

### ■ 事業概要

三池高等学校は、大正6年に福岡県立三池中学校として開校し、平成29年に創立100周年を迎えた伝統校です。本事業は、昭和35～40年にかけて建設された既存施設の建替え計画に当たり、体育館の改築工事を行ったものです。



(アリーナ)



(東側外観)

### ■ 木質化

- ・体育館のアリーナ・ステージなど、保護者や地域住民など多くの人が集まるPR効果が高い場所を中心に内装材の木質化を行っています。

### ■ 立面計画

- ・シャープな庇により、ボリュームの大きな体育館を軽やかに見せています。
- ・白色をベースに、近代工業化で発展してきた三池をイメージしたコンクリート打ち放しの柱で外観を構成しています。